

わ

が

街

わ

が

故

郷

## 株式会社 不二越 東京事業所とその周辺

会社名 株式会社不二越 東京事業所  
所在地 〒105-0021  
東京都港区東新橋 1-9-2  
汐留住友ビル17階  
電話番号 03-5568-5111

東京事業所は1929年（昭和4年）の東京出張所開設に始まり、その後日本橋茅場町、芝西久保町、浜松町貿易センタービルなど幾度かの移転の後、2004年（平成16年）に現在の場所に移転し、今日に至っています。

事業所内には、本社管理部門と国内外の販売部門が1フロアの中に同居しております。

今回は、当事業所のあります「汐留（しおどめ）」界限をご紹介します。

### 1. 地名の由来について

現在当事業所がある辺りは、かつて葦の茂る海辺の湿地帯でしたが、1603年江戸幕府の開幕後、徳川家康が発令しました「天下普請」と称せられる城下町建設事業によって埋め立てられました。その結果、汐留は周辺の新橋、銀座などとともに大屋敷が軒を連ねる屋敷町となりました。ここ汐留には当時仙台藩の上屋敷がありました。今も当時の石組みが街角に残っています。当時江戸城外堀に潮の干満が及ばないように海

と仕切る堰があったことから、「潮を止める」が略されて「汐留（しおどめ）」という地名になったと言われています。

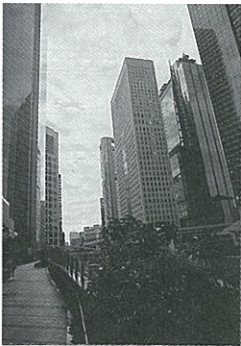


銀座7丁目に残る伊達家礎石

### 2. 汐留地区の変遷

その後時代は明治に移り、新政府になって屋敷は接收、1872年（明治5年）日本初の鉄道が横浜との間に開設された際、起点となる新橋駅がこの汐留に建設され、東京の玄関として華やかで活気のある街となりました。しかし、1914年（大正3年）には西に延びる新橋駅と北へ延びる上野駅が結ばれ、途中で中央停車場として東京駅が開設されました。旅客運送起点の座を東京駅に譲った後の汐留は、東海道線のルート変更により当時の烏森（からすもり）駅が新橋駅を名乗り、旧新橋駅は貨物専用の汐留貨物駅となりました。この汐留貨物駅は、長い間首都圏の貨物輸送の中心でしたが、1980年代には鉄道に代わってトラックでの輸送へと時代は移り、

ついに1986年（昭和61年）汐留貨物駅は廃止されました。翌1987年（昭和62年）の国鉄民営化とともに跡地の売却が検討されましたが、折しもバブル期で、地価の高騰に拍車を掛けるとの懸念もあって、しばらく見送られた経緯があります。31ヘクタールにも及ぶ貨物駅跡地は東京都の都市基盤整備事業と民間のプロジェクトにより、1995年（平成7年）から再開発が始まりました。現在は13棟の高層ビルが立ち並び、テレビ放送局、通信社、大手広告代理店、オフィス、4つのホテル、劇場、集合住宅や数多くのレストラン、ショップなどが地下通路と地上のペDESTリアンデッキで繋がる、就業人口6万人、居住人口6千人の複合都市として生まれ変わりつつあります。今や六本木ヒルズ、お台場などと並んで東京の新観光名所の一つとなって、平日でも観光客でにぎわっています。



汐留地区の高層ビル群

### 3. 周辺の紹介

では、事務所を出て周辺を少し歩いてみましょう。

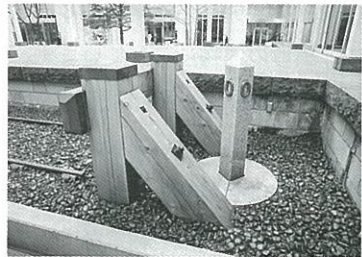
#### (1) 古を偲ぶ旧新橋停車場

「汐留交差点」の付近にある、旧新橋停車場からスタートです。この建物は、鉄道発祥の地を後世に伝えるため、当時の場所に当時の姿で再建された駅舎です。日本鉄道の出発点となった「0哩（ゼロマイル）標識」と「復元軌道」は駅舎

の傍らに設置してありますので、お見逃しなく。建物内部には入場無料の「鉄道歴史展示室」のほか、ビアレストランがオープンしていて、当時に想いを馳せながら杯を傾けることができます。



旧新橋停車場



0哩（ゼロマイル）標識

#### (2) 象もいた浜離宮恩賜庭園

喉をうるおした後、「海岸通り」を海側に300メートルほど歩くと浜離宮庭園の入り口に着きます。



浜離宮恩賜庭園

（汐入の池とお茶屋。後には汐留のビル街が望めます）

浜離宮は徳川将軍家ゆかりの庭園で、江戸時代を代表する大名庭園です。8代将軍吉宗の時代にはベトナムから取り寄せた象が21年間飼わ



れていたそうです。今は季節の野鳥が飛来し、春には30万本の菜の花、秋には一面のコスモスが咲き誇り、都心のオアシスとなっています。「汐入の池」中央にあるお茶屋で抹茶と和菓子のセット(¥500円)をいただきます。デートや観光の一品タイムに最適です。



築地本願寺

### (3) 扇形の築地卸売市場、人気の場外市場

浜離宮入り口を出て、「新大橋通り」を築地方面に歩くと、左手に朝日新聞本社、右手に築地卸売市場があります。江戸時代の魚河岸(うおがし)が発祥で、この地には1935年(昭和10年)に中央卸売市場として開設されました。貨物は旧汐留駅から引き込み線を通じて運ばれましたので、扇形の建物になっています。そのまま歩いて「みゆき通り」と「晴海通り」の間が有名な「場外市場」となっています。生鮮食料品ばかりでなく、飲食店が軒を連ねているところで、一般の方も自由に買い物や飲食ができます。



道端に立つ踏切警報機

(汐留貨物駅から築地市場への貨物引込線跡に)  
ひっそりと保存されています

### (4) 古代インド建築の築地本願寺

道そのままに「晴海通り」を渡ると、古代インド式伽藍の築地本願寺が現れます。奇抜な外観の本堂内部にはパイプオルガンが設置しており、仏前結婚式などで荘厳な音色を響かせています。

### (5) 開かずの勝どき橋

築地本願寺から晴海方面に「晴海通り」を400メートルほど歩くと「勝どき橋」に着きます。「勝どき」の名は、日露戦争の旅順攻略に勝利したことに由来します。隅田川を大型船が行き来する際に橋桁が開閉する仕掛けは、残念ながら1970年(昭和45年)以来作動せず、今や開かずの普通の橋となっています。



勝どき橋

(中央部がはね上がります)

### (6) 月島のもんじゃ焼き

「勝どき橋」からは、もんじゃ焼きで有名な月島がすぐそば。「月島もんじゃ振興会」のパンフレットを参考にお店を選び、下町の大人の味覚を楽しんでいきましょう。

### (7) 電車で行くイタリア、ウィータ・イタリア (イタリア街)

そろそろ歩き疲れてきました。楽をして電車で移動です。地下鉄大江戸線「勝どき橋駅」から乗車して2駅目の「汐留駅」で下車します。エレベーターで地上に出て、「新交通ゆりかも

め」の高架下を浜松町方面へ300メートルほど歩いたところでJR線の線路をくぐると、イタリアに着きます。



ヴィータ・イタリア(イタリア街)  
広場からの眺め

もともとは汐留貨物駅の運送屋街でしたが「街ごとイタリア化計画」に基づき、イタリアをテーマにした街づくりが進行中です。建物はもちろん石畳を敷き詰めた道路、広場や街路灯などもイタリアの街並みを感じさせ、街全体がテーマパークのようです。広場を眺めながらの、

イタリアの香りのするエスプレッソコーヒーは格別で、散策の疲れを癒してくれます。

#### 4. 発展し続ける街

東京都と民間が一体となって開発に取り組んでいる汐留地区再開発は、最後の工事が南の玄関口である浜松町北口付近と山手線内側のイタリア街地区で進行中です。また、東京都の最も重要な幹線道路の一つである「環状2号線（外堀通り）」の虎ノ門から新橋への延長工事（いわゆる「マッカーサー道路」）は、1946年（昭和21年）の計画から長い間整備が進みませんでした。汐留地区の再開発の進行に伴い、ようやく整備に着手されることになりました。

江戸時代以来の歴史を下敷きとした、再開発の進む街からの情報・文化の発信はこれからも続きます。

(株)不二越 東京業務部 北野 亮)